

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	光明第三こども園
-----	----------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

昨年度、色水やフィンガーペインティングなどの活動で、多くの子どもが長時間集中して遊び、とても興味があるようだった。今年度は色に関する活動を多く取り入れていき、子どもたちの関心を深めていきたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

乳児…感触遊びを中心に、水、氷、粘土、泡などに着色することで、色への興味やイメージの広がりを促す。

幼児…三原色の色水で、様々な色作りに挑戦する。

色の数。無限の色の気づき。色の名前を知る。色探し（同じ色の発見など）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

食用色素、小麦粉粘土、カラーセロハン、ジャグ、透明容器、色付き容器、光のテーブル等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

8/15 色水	8/29 色付き小麦粉粘土
10/1 色水	11/21 フィンガーペイント
12/20 光のテーブル	1/21 光のテーブル

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

色水…水を混ぜて色味の変化に気づいたり、色つきの容器に色水を入れたりすることで見え方が変わることに気づき、繰り返し試していた。

粘土…色つきの粘土の混ざりあいを観察する。色からイメージを広げて表現を楽しんでいた。

ペイント…両手、筆、スポンジローラーなどで、絵具遊びをする。その過程で、色の混ざり合いに気づき、変化を楽しんでいた。

光のテーブル…光を当てることで、色味が変わることに気づいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

2歳児の子どもたちを中心に行ったため、色に興味を持ってもらうため言葉での問いかけをしても、保育者の意図が伝わる子と伝わらない子がいた。しかし、言葉で伝えようとしなくても、環境を整えることで、子どもたちは自分で気づき、探求していくことがわかった。例えば、色水活動で色の混ざり合いを楽しんでももらいたいとき、赤と青、黄色と青を近くに置くことで、自然と紫や緑になることに気づき、混ぜ合わせる楽しさに気付いていた。環境設定の大切さを感じた。